



事務総長のスピーチ

ジョン・ヒューコ

国際ロータリー事務総長兼最高経営責任者

2026年1月12日

皆さん、こんにちは。オーランドでの2026年国際協議会によこそお越しくださいました。

今週はリーダーシップと革新について多くの話を聞きになるでしょう。リーダーシップにおける最大の課題の一つは、どうすれば人の心に訴えることができるか、ということです。九つの公式言語が使用され、文化・地理・世代を超えた数多くのプログラムが実施されるロータリーにおいて、これは簡単なことではありません。

昨年、私はソーシャルメディア動画を作成しました。これは、米国の若者の間で当時流行っていたスラング表現「brain rot」(脳腐れ)と呼ばれるZ世代の言葉を用いて、世代間の隔たりを越えてコミュニケーションを図ろうとする試みでした。

この動画で私が言っていることの一部を理解できなくても問題ありません。私自身もよく理解できていませんから。それではご覧ください。(動画を再生)

いかがでしたか？

ちょっと引いてしまいますね。CEOの発言としてふさわしくないとお思いになるでしょう。しかし、私たちは相手の目線で考える必要があるのです。特に若い世代の人たちとは。

実際、もう少し長めの少し異なるバージョンが、昨年、私のSNSで最も人気があった動画の一つとなりました。もちろん、この動画はほかの言語には翻訳されませんでした。標準的な英語にすら翻訳できないのですから。

しかし、この「理解できない」という感覚を見過ごすことはできません。今や大陸を越えて、若者たちは私たちの世代にはまったく馴染みのない言語や表現、概念を用いて、言葉やユーモア、切迫感をリアルタイムで生み出し、共有しているのです。

これは重要なことです。

昨年だけでも、若者主導の運動がインドネシア、ネパール、ケニア、マダガスカル、ペルー、モロッコ、メキシコを揺るがし、それらは互いに影響し合っていました。

ある国で共有されたスローガンやイメージは、翌朝には別の国に現れました。ミームがマニフェストとなり、争いの具体的な原因がわかる前に怒りの感情が広がりました。これが新たなグローバルな草の根の力です。迅速で、国境がなく、計画に基づくものでもありません。

そしてこれは、世界で進行中の急速な変化の一形態に過ぎません。

同時に、国家や機関による地球規模の問題と解決策からの後退も見られます。テクノロジーが世界を縮小し続ける一方で、古い国際秩序は崩壊しつつあります。

その秩序は多国間協調主義(multilateralism)と呼ばれたもので、国家間の相互作用、条約、国際機関で成り立っていました。

新たな多国間協調主義は、人びとの間で起こります。

人びとの間のつながりや合意は、大規模な国際会議よりも重要になりつつあります。人と人が一対一でつながること——それはロータリーの活動そのものです。この新たな多国間協調主義には、ロータリーにとっての大きな機会が存在します。

これこそ私たちの強みです。ご存知の通り、ロータリーは人をつなぐことに長けています。大規模な国際行事にて結集し、関係を築き、奉仕プロジェクトに取り組み、青少年交換のような素晴らしいプログラムを推進し、何世代にもわたる平和フェローを支援し、インターラクトやロータリアクトを通じて未来のリーダーを育成しています。これこそがロータリーの真の力であり、この新しい世界で私たちを非常に意義ある存在にしているのです。

あの奇妙な言葉やミームに話を戻しますが、確かにロータリーは草の根の団体で、どこでもローカルな存在です。しかし「草の根」の意味も急速に変化しています。アフリカ諸国の多くでは、人口の大半が21歳未満です。

では、その世代に最も近いのは誰でしょう。地元のロータリークラブか、それともどこにでもいるであろうTikTokのインフルエンサーでしょうか？

私たちはしばしば、身近なグループの外で人びとがどのようにつながり、アイデアを共有しているかについて、理解が乏しくなることがあります。だからこそ、ロータリーの今後の使命は明確です。それは、人びとつながり、人の心に訴えること。ロータリーを成長させ、クラブの意義を高め、人びとに奉仕することに注力すべきです。そして、革新に焦点を当てることで、これを実現し、プロジェクトのインパクトを高めることができます。

ロータリーにおける革新とは、耳を傾ける勇気、適応する謙虚さ、そしてトップダウンではなく、末端や草の根から変化を起こしていく意志です。それは、あらゆる社会的トレンドに追いつこうとしたり、最新のテクノロジーを即座に導入したりすることではありません。

120年の歴史を誇るロータリーは、現在においても革新性を失っていないことを示しています。ロータリーはその歩みの中で、常に「あえて他とは異なる道」を選び続けてきました。そして今日、ポリオ根絶の間近まで来られたのは、ロータリーが絶え間なく革新を続け、時代を動かす存在であり続けたからです。

今こそ、ロータリーをより革新的な団体にする方法、そして人と人のつながりによる多国間協調主義を活かし、最大のインパクトを実現する道を探りましょう。

私たちの可能性を示す好例が環境分野にあります。ロータリーは5年前に環境を新たな重点分野と定め、環境問題へのコミットメントを示しました。実際、ビル・ゲイツ氏は最近、排出削減

目標の達成に注力するよりも、環境変化の影響を最も強く受ける地域社会へのインパクトに焦点を当てる方が有益かもしれませんと述べています。

これはロータリーが得意とする分野です。例えば、インドでの大規模プログラム補助金は新たな基準を打ち立てました。この取り組みでは、4州にまたがり、持続可能な灌漑の導入、チェックダムや貯水池の建設、作物の多様化、食糧システムの強化を通じて数千の農家を支援することに焦点を当てています。

この変革的な活動は、自らの土地を理解する地元のロータリアンが主導しています。これは、革新が技術のみからではなく、専門知識とニーズを結びつけるロータリーの能力から生まれることを証明しています。今後数年間でロータリーは、より大規模な環境プロジェクトに取り組み、規模拡大を支援できるパートナーと連携することもできます。

教育もまた、世界における緊急の課題です。UNICEF(国連児童基金)は最近、教育予算の削減により今年末までにさらに600万人の子どもが学校に通えなくなる恐れがあると警告しました。これは新たな思考を必要とする危機です。

長年にわたり、ロータリーは教育に多大なインパクトをもたらせることを実証してきました。その最たる例が、グアテマラでの識字プロジェクトです。1998年以来、グアテマラと北米の400以上のロータリークラブが、非営利団体である「Cooperative for Education」と提携し、子どもたちに教科書などを提供してきました。

このプロジェクトの大きな強みは、学校のニーズに応じて絶えず調整を図ってきた点にあります。教科書の提供、教員の研修、コンピュータールームの整備、小中学校向けの新しい識字教育法の導入を通じて、規模を拡大してきました。

そのインパクトは驚くべきものです。これまでに277,000人以上の生徒が恩恵を受けてきました。私たちは協力して、この国の識字率を倍増させ、読み書きできる人は3人に一人から二人へと増えたのです。

このようなプロジェクトは重要であり、成果が現れるまでに多くの年数を要することが多くあります。しかし、ご自分の任期を超えて継続できる、長期的なコミットメントが重要です。

持続可能な変化を起こすには時間がかかりますが、ガバナーとして即座に実行できることも多く、それらは革新を促進し、草の根の力を育む助けとなります。その一例がガバナー補佐の強化です。ガバナー補佐は、地区全体における皆さまの目となり耳となり、非常に大きな力となってくれます。地区内のすべてのクラブで起きていることを把握する時間は到底ありませんが、強力なガバナー補佐チームがあればそれが可能となり、地区全体に革新を広めることができます。

今すぐ実行できる二つ目のことは、新クラブを設立することです。これはガバナーの最も重要な責務の一つです。新クラブはロータリーの未来にとって不可欠です。しかし、新クラブが地域社会の真のニーズに応えることも同様に重要です。

現在、世界中でクラブモデルの革新が進んでいます。奉仕活動のみを行う例会を試しているクラブもあります。また、ネットワーキングに重点を置くクラブや、例会場をローテーションで決

めているクラブもあります。新型コロナの流行時にオンライン例会を経験し、その良さを気に入つて、対面式とオンライン式を組み合わせたハイブリッド型になったクラブもあります。

クラブが革新のアイデアをさらに必要としている場合、ロータリー行動計画は、クラブが提供する体験を再考する上で、非常に役立つリソースとなります。

ガバナーには、地区内の各クラブをしっかりと見直す責務があります。伝統的なクラブが順調であれば、それは素晴らしいことです。しかし苦戦しているクラブには、変革の時が来ています。停滞しているクラブの形式やモデルに力を入れ続けるわけにはいきません。そのため皆さまは、ロータリーが伝統の継承にとどまらない存在であることを、クラブに理解してもらう責務を担っています。

クラブが現在の運営方法に固執しないよう呼びかけてください。新たな視点で考え、現会員と将来の会員にとって魅力的なクラブ体験を創り出してください。時間、場所、例会の長さや形式を、会員にあった形に変えていきましょう。

忘れてはならないのは、すべてのロータリークラブは会員のために存在するのであって、理想像を語るだけの場ではないということです。法人クラブ、分野特化型クラブ、柔軟なクラブ、ハイブリッド式のクラブ、追加の例会時間など、これらは例外的に使用する方法なのではなく、ロータリーの未来への鍵なのです。

急速に変化する世界でリーダーシップを発揮する準備と意欲を備えた、真の草の根の団体としてロータリーを再構築するため、三つの明確な実行項目を提案いたします。これらは、ロータリーが今この瞬間を最大限に活かすために注力すべき事項です。

まず、先ほど述べたように、特に若い世代に魅力的な新しい革新的なクラブモデルを中心に、新たなクラブを設立することです。新クラブが一つできれば、少なくとも15名の新会員がロータリーに加わります。各地区が五つの新クラブを設立すれば、地区ごとに少なくとも75名の新会員が生まれます。これは年に少なくとも39,000人の新会員に相当します。これが最もシンプルで確実な成長路線であり、完全に皆さまの手にかかっています。

次に、クラブ体験に注力することです。新会員を迎えるだけでは不十分であり、既存会員の維持が必要です。調査によると、会員を3年間維持できれば、長期にわたって会員であり続ける可能性が高まります。新会員が「生涯ロータリアン」となるようなクラブ体験を提供することが不可欠です。

最後に、奉仕においては、インパクトに焦点を当て、拡大可能性、パートナーシップ、持続可能性に取り組むことです。世界がどのように変化しているかを認識し、分断された世界をつなぐロータリーの力を示す大小さまざまなプロジェクトを推進してください。

皆さまはその使命の重要な一部なのです。

リーダーシップを発揮するために、世界が動きを緩めるのを待つ必要はありません。不確かな時代だからと、アイデアの実行を躊躇したり、慣れ親しんだ方法に固執したりしてはいけません。

新たな声がロータリーの未来を形作れる場を創り出しましょう。

大胆にクラブを設立し、自由に実験し、異なることを実行しようとするクラブを守りましょう。

時代に即し、インパクトに根ざし、ニーズに基づき、尊厳をもって実行されるプロジェクトを立ち上げましょう。

ロータリーのグローバルな視点の力を活かし、揺るぎなく、思いやりを持って、恐れることなく導きましょう。

そして共に一歩を踏み出し、よいことのために手を取り合い、持続可能なインパクトを生み出しましょう。

ありがとうございました。国際協議会をお楽しみください。